

概要

被災者の雇用を図りながら、八戸市中心街に活動拠点として「モビリティ・サポートセンター」を設置し、モビリティ・マネジメント(※)の手法を駆使して、公共交通が使える移動手段であることを周知広報し、住民の日常的利用によりバス路線を維持しながら、来訪者にとっても使える路線として発展させる仕組みを構築する。

※「過度に自動車に頼る状態」から、「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に(=かしく)利用する状態」へと少しずつ変えていく取組み

1. 既存バス網を活用した「日帰り旅行商品」の企画開発システムの構築

公共交通と施設をセットにした「日帰り旅行商品」「お得な企画乗車券」を各施設、交通事業者と連携して開発する。



公共交通を利用して沿線の魅力を周遊するモデルコースを紹介した冊子を作成し、おでかけ機会の提案を行う。



2. 未来を担う子ども向け「公共交通の乗り方・マナー教室」等の実施

次代を担う子どもたちを対象に、渋滞解消・地球温暖化防止等の観点での公共交通の大切さ、公共交通の乗り方や公共マナーを教える出前教室を実施する。



3. 企業のバス通勤を促進する「スマートムーブプロジェクト」の実施

「企業向けバス利用促進」の方途について、商工会議所等と連携しながら、実際に企業に働きかけ、有効な施策展開のあり方を検討し、本格実施に向けた基盤を構築する。



4. 路線バス乗降マナー実態調査等の実施

バス停における乗降マナーの実態を調査・把握し、乗降マナー向上の方策を検討・実践する。



5. あらゆる世代が利用しやすい移動手段を検討するプラットフォームの構築

交通事業者、利用者、有識者、行政などの公共交通を始めとした移動手段に関する関係者が集まり、公共交通の利用環境改善や利用促進に向けた取組みについて話し合うとともに、この取組みを担う人材の育成と活用方法について検討する。

